



イラスト 尾崎眞吾

『金子みすゞ童謡全集』
 (JICA出版局)より

竹とんぼ
 キリリ、キリリ、竹とんぼ、
 あがれ、あがれ、竹とんぼ。
 二階の屋根よりまだ高く、
 一本杉よりまだ高く、
 かつらぎ山よりまだ高く。
 私わたしのけずった竹とんぼ、
 私わたしのかわりに飛びあがれ。
 キリリ、キリリ、竹とんぼ、
 あがれ、あがれ、竹とんぼ。
 お山の煙けむりよりまだ高く、
 ひばりの唄うたよりまだ高く、
 かすんだお空をつき抜ける。
 けれどもきつと忘れずに、
 ここの小みちへ下りしつと。

《私の好きな詩 金子みすゞ記念館 企画員 草場睦弘》

“金子みすゞのふるさと” 仙崎(山口県長門市)は、三方を海に囲まれた漁業の町だ。日本海に浮かぶ国定公園・青海島に向かって半島のように突き出し、かつては瀬戸崎と呼ばれていた。その東海岸に立つと、美しく連なる中国山地の一番奥に「かつらぎ山」を見ることが出来る。標高はわずか670メートル余りの山であるが、高い山のない山口県のこの地区では、その端正な姿は十分な存在感をもっている。

“私のけずった竹とんぼ” という一節があるが、果してみすゞさんが削ったのだろうか…？ 高く飛ぶ竹とんぼを作るのは難しく手先の不器用な私は、とても苦手だった。幼い頃、みすゞさんは、高く上がる竹とんぼに憧れを託したのだろうか。それにしても子供らしく可愛い詩で、読むたびに微笑んでいる自分がいる。

みすゞさんが矢崎節夫氏に再発見され、甦りを始め33年経った。当時、地元でも誰も知らなかった“幻の童謡詩人”が、今のように多くの人に知られるようになったのは、みすゞさんの“言葉の力”は勿論であるが、たくさんの方々の方々の力添えがあったからに他ならない。

石鎚みすゞコスモスも、2002年7月に結成をし、それ以降多くのイベントを通じ、伊予の地に“みすゞさんの心”を広げていただいた。そして今年11月1日には、矢崎先生とともに、毎日新聞の名コラムニストと近藤勝重さんを招いてのイベント「金子みすゞの宇宙」～21世紀は金子みすゞのまなざし～を開催されるという。

「近藤勝重さんを、お招きしては？」と、提案したのは、実は私である。私がかねてより近藤さんの書かれている、毎日新聞・夕刊の「しあわせのトンボ」というコラムを毎週楽しみに読んでいた。それは文章の中に、矢崎先生をはじめとする、私たちみすゞ仲間と同じ、あたたかい物の見方を感じていたからだ。

その中に時折、伊予訛りのこと、恩師や旧友のことが登場し、ユーモアと少なからず郷愁を込めて、故郷のことが綴られていた。そして、近藤さんの出身が新居浜市であることを知った。

“しあわせの竹とんぼ”の近藤さんが、高く上った後に、みすゞさんの“竹とんぼ”のように、故郷の皆さんに会いに帰ってこられた、と勝手に思いながら何だか嬉しくなっている。

定例会日時のお知らせ

☆日時：毎月第3木曜日 AM10時～12時30分まで
 ☆場所：新居浜市まちづくり協働オフィス

エッセイ募集

☆私の好きなみすゞの詩
 ☆どしどしご投稿下さい。

Tel/0897-65-3158/Fax0897-65-3157/info@nihama-kyodo.jp ・ [090-5642-7809 yuyu1221@cream.plala.or.jp](mailto:090-5642-7809/yuyu1221@cream.plala.or.jp)(矢崎)



